

ピアサポートの役割と課題

-VHO-net に関わる先生方の
専門分野による切り口の違い-

発表者

堀川新二 活水女子大学

研究者

堀川新二¹, 松原玲子², 浅野とも子³,
中尾郁子⁴, 紺野ヤス子⁵

1. 活水女子大学 2. 乳腺患者会プリティふらわあ
3. NPO法人ひょうごセルフヘルプ支援センター 4. しらさぎアイアイ会
5. 福島県難病団体連絡協議会

COI

発表資料作成において、ファイザー株式会社
松岡宏晃のサポートを受けた。

はじめに

難病や障害等生きづらさを抱えている人々が必要としているピアサポートの役割として、対象のニーズに合った対応が求められている。そのためには多様な専門的知識や経験という引き出しを持つことが必要であり、対象に応じて使い分けることが質の向上につながると考える。

そこで、VHO-net に関わる先生方の専門分野（社会学、社会福祉、臨床心理、医学、看護）の切り口から、ピアサポートの役割や課題を改めて考え直すことを目的とした。

方法

- まねきねこのバックナンバーから、VHO-netの専門職の先生方のピアサポートに関する内容を抽出した。
- さらに、先生方の名前で論文検索し、ヒットした文献のうちピアサポートに関連するものを読んで、ピアサポートの役割と課題について検討した。

結果1 社会学的視点 1

- 自分の思いをただ力説するよりも、むしろ「変わるのはあくまでも本人」「私の場合はこのようだったけど、それがすべてではないかもしれない」というふうに、少し冷めた部分をもっているぐらいが、結果的にはむしろよいかもしれない。

伊藤智樹 まねきねこ41号

- グループ内の活動過程と参加者の自己変容との関係に迫るには単に参加者たちの発言内容に耳を傾けるだけでなく、彼・彼女たちが物語をどのような基準によって「よい話」とするのかに注意する必要がある。

伊藤智樹 社会学評論51巻1号 2000年

結果1 社会学的視点 2

- 医療社会学と呼ばれる細かい学問領域の中に、現在までの医療がともすればなおざりにしがちだった、患者の人間としての苦しみや社会生活上の困難を記述したり、そこから何を学べるかを考察したりする研究は、今後ますます必要になる。

伊藤智樹 まねきねこ39号

結果2 医学的視点

- これからの医療に必要とされるのは、患者と医療者が協働作業として行う医療である。そのためには両者が上下の関係性ではなく、水平に、そしてオープンに話し合える関係性であることが必要となる。

加藤眞三 全人的医療17巻1号 2018年

- 支えるためのピアサポートは、相手に回答を与えることではなく、相手を承認することにより自己肯定感を高めることがピアサポートとして重要な機能となる。

加藤眞三 まねきねこ54号

結果3 社会福祉学的視点 1

- セルフヘルプグループ（SHG）は、自己の内なる変革（自己変革）と、外なる変革（社会変革）をもたらす。
- 反専門職主義 当事者であるセルフヘルパーは自分の実感を大切にして専門職に体験を伝え、仲間とともに異議を申立て、社会の主人公は専門職ではなくて生活主体者である市民にあることを訴えていく。
- セルフヘルプグループの援助は与える側が同時に与えられる側となる（援助者治療原則）

中田智恵海 ノーマライゼーション 障害者の福祉 1998年2月号

結果3 社会福祉学的視点 2

- SHGは社会的認知度が低いため、広報が必要である。
中田智恵海 佛教大学社会福祉学部論集第11号 2015 年
- 体験的専門知識は、当事者の持つ経験から得た知識は専門職の持つ知識と同じように貴重で、仲間はこれによってつながり、専門職と対等に対峙して主体的に生きる手段になるものである。

中田智恵海 まねきねこ17号

結果4 臨床心理学的視点

- 支援者はまずカウンセリングの基礎技術を学び、その次に自分の病気とストレスとの関連を学習していくことが大切である。

上田幸彦 まねきねこ28号

- ピアカウンセリングは当事者でもあるカウンセラーが体験例を示すことで相談者が希望を見いだす、またカウンセラーも「愛他主義」、つまり人の役に立っていて幸福だという感情が持て、双方にメリットが生まれる。

上田幸彦 まねきねこ23号

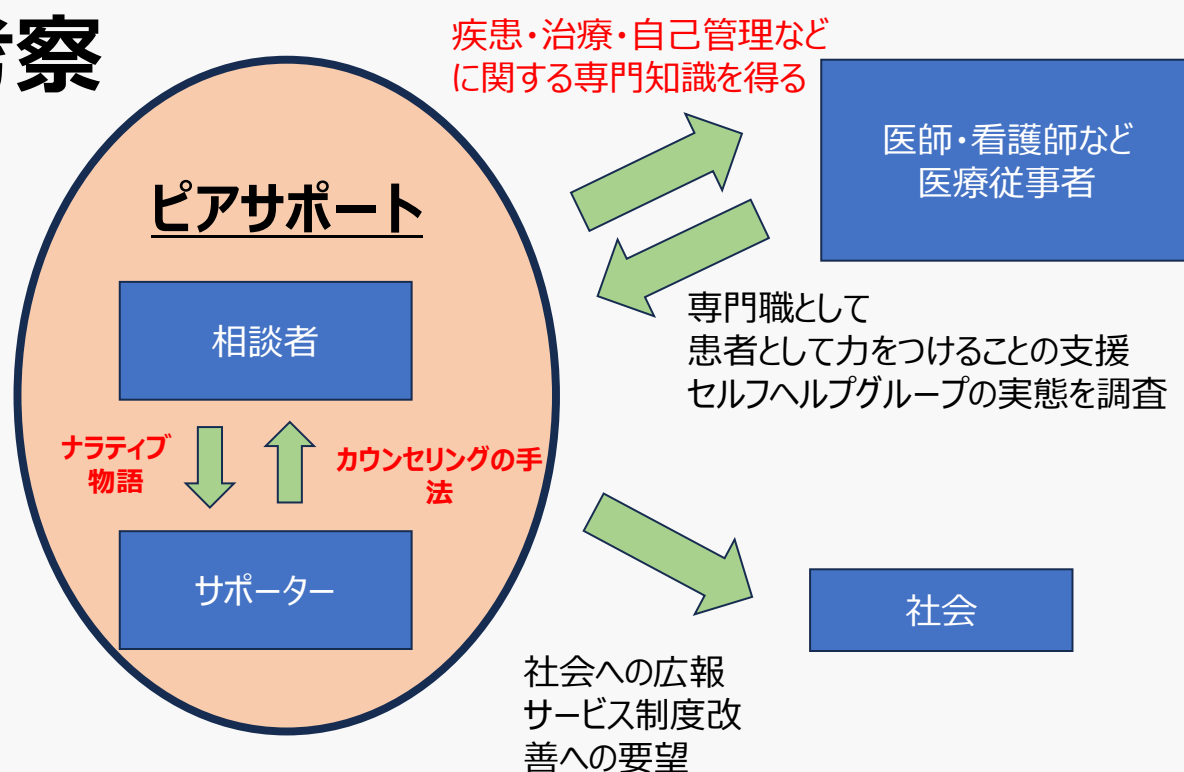
結果5 看護学的視点

- アルコール依存症から良い回復をとげていると思われるセルフヘルプグループメンバー29名を対象にインタビュー調査を実施した。
- 逐語録から自己肯定の根拠を類型化すると、①社会的に成功しているグループ、②セルフヘルプグループで活躍しているグループ、③セルフヘルプグループに支えられているグループ、④仕事も家庭も維持できたグループ、⑤社会的な制約から離れた生き方を選択したグループに型形化された。多くのメンバーは己の生き方や生活態度など複数の側面において自己肯定感を獲得していた。

考察 ピアサポート5か条について

- 社会学の視点：ピアサポートに関わる者が、自らの物語を語ることで自己受容や行動変容を促せる（ピアサポート5か条1）
- 臨床心理士の視点：語りの場面で、カウンセリングの技術が役立つ（ピアサポート5か条1）
- 医師、看護師の視点：患者が力をつけることをサポート、ピアサポートの効果を検証してフィードバック（ピアサポート5か条3）
- 社会福祉の視点：社会的な認知度を高めるため、広報的な活動を支える。（ピアサポート5か条2）

考察



ピアサポートが健全に自立し、社会に認められることを目指す、繋がりを大切に

考察およびまとめ

ピアサポートの役割として意思決定支援の重要性が改めて示された。自らの経験を押し付けず、相手を受け入れる傾聴や共感のスキルを意識することが信頼関係の構築に繋がる。支援の際には、社会学者のナラティブという視点や、臨床心理士のカウンセリング手法が役立つと考える。また、専門職や公的機関との連携も求められており、医療や行政との横のつながりも大切にしつつ社会へ訴えかけ、ピアサポートを正しく理解してもらえるような活動を行っていく必要がある。